

**[特集Ⅰ]** **新入生** **大学生としての学び方を知ろう!**  
**[特集Ⅱ]** **教員** **アクティブ・ラーニング型の授業づくり**



## 中京大学の FDとは

FDとは、授業内容・方法や広く大学の教育に係る活動を改善し向上させるための組織的な取り組み (Faculty Development) のことを意味します。中京大学では、FDを“大学のすべての者の幸せのため”と位置づけ、それを目指して学生・教員・職員(三者)がベストを尽くすもの(For Doing our best)ととらえています。

## FDに関する 人材育成の 目標・方針

「FDの目的・理念」に掲げる「より良い授業」を展開するために、授業の計画、実施、評価及び改善に関わる能力を身につけ、本学の特徴を活かした教育を行い、教育における自らの役割を自覚し、職責の遂行に全力を尽くすことができる人材の育成を目指します。

## CONTENTS

- 大学の授業ってどうなっているの? ..... 2
- 授業の履修にはシラバスを活用しよう! ..... 3
- 科目ルーブリックを確認しよう! ..... 4
- 自己成長評価アンケート ..... 4
- 授業改善のためのアンケート ..... 5
- アクティブ・ラーニングの手法 ..... 6
- アクティブ・ラーニングとMaNaBo ..... 7
- FDセミナー・教育推進センターの主な活動 ..... 8

# 大学の授業ってどうなっているの？

～大学の授業の仕組み～

## ● 大学のカリキュラム<sup>※1</sup>

本学のカリキュラムは、全学共通科目と、学部固有科目から構成されています。全学共通科目では総合的な知識を身につけるとともに、論理的思考力とコミュニケーション能力を磨きましょう。学部固有科目では専門的な知識や技術、課題の発見から解決方法までを身につけます。それぞれの学部・学科(専攻)の教育研究上の目的が学生便覧<sup>※2</sup>や次のページで紹介する本学のHPIに載っていますので、まずはその目的を理解しましょう。

※1 カリキュラム(教育課程):教育目標を達成するために、学修段階に応じて編成した4年間にわたる教育内容の計画のこと。

※2 学生便覧:学生生活を送る上で必要な情報を掲載した冊子。入学時に配布。

## ● 授業の選び方

本学の授業は、必修科目<sup>※3</sup>、選択必修科目、選択科目から構成されています。まずは学生便覧でカリキュラムをしっかり理解しましょう。次に、自分が履修すべき授業の内容を事前にシラバスでチェックしましょう。選択科目はたくさんの中から興味のある科目を履修することができます。授業を選ぶときはシラバスをよく読んで、自分が身につけたい分野の授業を選択しましょう。また、学科目時間割表も忘れずに確認しましょう。

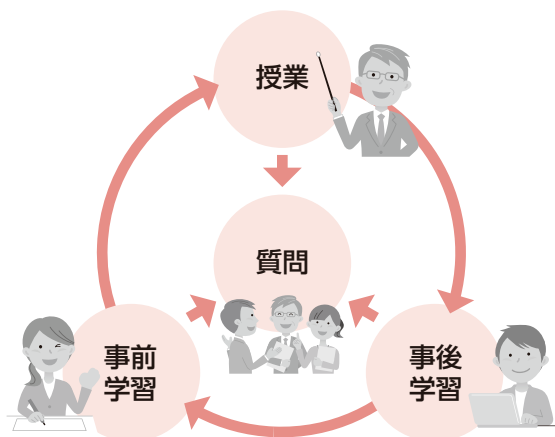
※3 必修科目:卒業するために必ず修得しなければならない科目。

## ● 大学での学び方

大学では、自ら学ぶ姿勢が非常に重要です。そのため、下の図のような学びの流れを自分で構築していかなければなりません。教務課や授業担当教員への相談はもちろん、CHUKYO MaNaBoなども活用していきましょう。

### CHUKYO MaNaBoとは？

資料・課題の提示など、授業担当教員と学生を結び教育支援システムです。



## ● 事前事後学習をしっかりしよう！

大学の1単位の定義は、大学設置基準で「四十五時間の学修を必要とする内容」と定められています。また、1単位の授業時間は、講義及び演習:15～30時間、実験、実習及び実技:30～45時間と定められています。

例えば1科目で2単位の講義の場合、90時間の学修時間が必要となります。次に授業時間<sup>※4</sup>は「15回(コマ)×2時間=30時間」となります。つまり、授業時間以外での学習は、「90時間(学修時間)－30時間(授業時間)=60時間」が必要となります。15回の講義だと、60時間÷15回=4時間となり、授業一回につき事前事後学習がそれぞれ平均して2時間ずつ必要だと言われています。

※4 授業時間:大学の授業は1回(コマ)を2時間として算出します。

## ● 積極的に質問をしよう！

疑問をもつことが学習の中心になります。質問があれば放置せず先生に聞いてみましょう。MaNaBo内でも質問ができるので活用してみてください。



**教務課職員を  
上手に頼ろう！**

大学には、主役である学生の皆さんに加え、教員と呼ばれる授業を教える立場の人、職員と呼ばれる大学生活を支援する立場の人が存在します。その中で私たち教務課職員は、学生の皆さんの学修を支援する立場にあります。

### 教務課職員からのメッセージ

皆さんが大学で学修する上でまず行うことは、自分オリジナルの時間割作成です。大学の時間割は、各自が受ける科目を選び、作り上げていきます。わからないことがあれば積極的に教務課にきて相談してください。大学で授業(学び)を充実させる上でも、私たち職員を活用してください。

# 授業の履修にはシラバスを活用しよう!

～シラバスの見方や活用法を解説～

## シラバスとは?

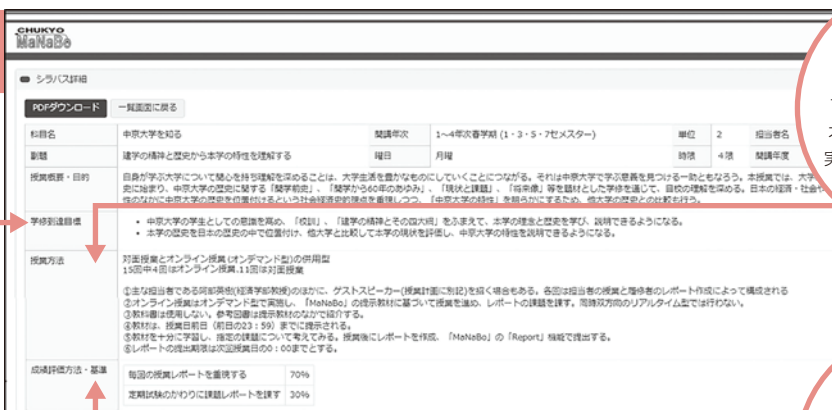
授業の概要や方法、評価基準などが記載されている授業ひとつひとつのカタログです。履修登録をするときに、どの授業を履修するのかを決める重要な資料となります。

シラバスは以下より閲覧可能です。履修登録前に必ずチェックしましょう。  
 中京大学HP→「メインメニュー」(左上)→「全学共通教育・専門教育」→「学部教育」→「シラバス(学部)」  
<https://manabo.cnc.chukyo-u.ac.jp/addon/syllabus>

QRコードはコチラ→



## シラバスの概要



### 学修到達目標

この授業を履修すると、どのような力が身につくのかを確認できるよ。  
 この項目は学位授与の方針に基づいて定められているよ。

### 授業方法

どのように授業を展開するのか書いてあるよ。オンラインや対面といった実施方法や講義形式などを含めて確認しよう。

### 成績評価方法・基準

どのように成績をつけられるのか、課題・試験の成績への反映比率などが分かるよ。

- シラバスにはこれらのほかにも、授業の計画や質問への対応方法、履修者へのコメント、事前事後学習などの項目が掲載されています。履修登録のときだけでなく、学期の途中にも確認し、学習の参考にしましょう。

## 学位授与の方針とは?

大学、学部・学科の教育理念に基づき、どのような力を身につけた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標となるものです。英語のDiploma Policyを略してDPとも呼ばれます。

中京大学HP→「メインメニュー」(左上)→「大学案内」→「教育方針と取り組み」→「中京大学の建学の精神・理念、教育研究上の目的、3つの方針」等  
<https://www.chukyo-u.ac.jp/information/activity/e4.html>

### 学位授与の方針

学部や学科ごとに定められたDPを確認できるよ。



### カリキュラムマップ

学部や学科、専攻ごとにどの科目がどのDPに対応しているかを確認できるよ。

### カリキュラムツリー

学部固有の科目同士がどのようなつながりを持っているかを確認できるよ。

- 全学共通教育の教育目的及び学修成果と学修環境、カリキュラムマップ、カリキュラムツリーもHPに掲載しています。併せて確認してみましょう。



# 科目ルーブリックを確認しよう!

## ● ルーブリックとは

ルーブリックとは、授業で求められる学修到達目標の達成度を確認するためのツールです。本学では一部の科目のルーブリックをMaNaBo上で提示しています。**授業を受講するときには、ルーブリックを確認し、学修到達目標の達成を意識してください。**また、ルーブリックは後述の「自己成長評価アンケート」にも役立ちます。

## ● ルーブリックの仕組みと見方

ルーブリックは、目標の達成度レベルを分け、達成度ごとに評価の観点を明示しています。多くの科目では評価の観点が学修到達目標になっており、それに対して、「できるようになってもらいたいこと」が示されています。

### ルーブリックの例

評価の観点	評価尺度	目標以上	目標達成	目標まであと少し	目標までまだ遠い
意思決定の仕方について理解し、説明できる		意思決定の仕方を最新の研究成果を踏まえて理解し、具体例を交えて分かりやすく説明できる。	意思決定の仕方を理解し、説明できる。	意思決定の仕方を理解しているが、説明できない。	意思決定の仕方を理解していない。
自分の意思決定の間違いを修正できる		日常生活の場面で自分の意思決定の間違いに気づき、修正した意思決定を実行できる。	自分の意思決定の間違いに気づき、修正できる。	自分の意思決定の間違いに気づくことができるが、修正はできない。	自分の意思決定の間違いに気づかない。

# 自己成長評価アンケート

## ● 自己成長評価アンケートとは

本学に入学してからの学習を皆さん自身が振り返り、どれだけ成長したかを確認・評価していただくことを目的として、継続的に実施しているアンケートです。科目ルーブリックがそれぞれの科目での目標を確認するのに対し、このアンケートでは1年間の成長をまとめて自己評価を行います。

皆さんご自身の回答はWeb上に保存されるため、集計後に公開される全体結果と比較するなど、今後の学習に役立ててください。アンケート結果は、統計資料としてまとめ、本学HPに掲載しています。

中京大学HP→「メインメニュー」(左上)→「大学案内」→「情報公開」→「教育研究」→「自己成長評価アンケート集計結果」

## ● アンケート設問

設問は大きく分けて「共通設問」と、「学部別設問」の2種類があります。



## ● 回答のポイント

3ページでご紹介した、学位授与の方針やカリキュラムマップなどを確認しておく、より正確な回答ができるだけでなく、今の自分に足りない力やそのために取るべき授業もより明確になります。

このアンケートは、現時点での自分の達成度や成長度を自ら確認するもののため、修得した単位の学修到達目標等を確認の上、現状を忠実に回答してください。

# 授業改善のためのアンケート

本学では、提供するカリキュラムや授業などの学びの機会が、学生の皆さんにとってより良いものとなるよう、様々な教育改善に関する活動を行っています。その全学的な取組のひとつに「授業改善のためのアンケート」があります。

このアンケートでは皆さんの授業に対する満足度や意見を集約し、授業担当者はその結果を授業改善に役立てています。2020年度春学期の回答率は56.9%、秋学期の回答率は60.2%でした。

**よりよい改善につなげるため、アンケートへのご協力をよろしくお願いいたします。アンケートの集計データと、結果に対する授業担当者のコメントはWeb(MaNaBo)上で公開しています。**

## ・ 授業改善のためのプロセス ・



授業改善のためのアンケートをWeb(MaNaBo)で実施

※各学期の第13～14週目を実施

アンケート回答結果を授業担当者へフィードバック

授業担当者はアンケート結果を基に次年度以降の改善に向けたコメントを作成

学部内の点検担当者による、改善に向けたコメントの確認

これを  
確認しよう!

アンケート結果と授業担当者コメントを  
Web(MaNaBo)上で公開

※自分が回答していない科目の情報も見ることができます

学生

アンケート結果と授業担当者コメントを  
次期履修の参考にする

教員

アンケート結果を  
担当科目の授業改善に結びつけていく

その他、本学では、授業環境や学内環境の改善に向けて、学生の皆さんの貴重な意見を集約し、今後の環境整備などの参考資料として活用することを目的に「**授業環境・学内環境に関するアンケート**」も同時に実施しています。具体的には、教育支援システム、教室の照明、空調、机、Wi-Fi環境、学習スペース、休憩スペースなどがその対象です。学生の皆さんから届いた声は学内で公開するとともに、環境整備計画に役立てられています。



# アクティブ・ラーニングの手法

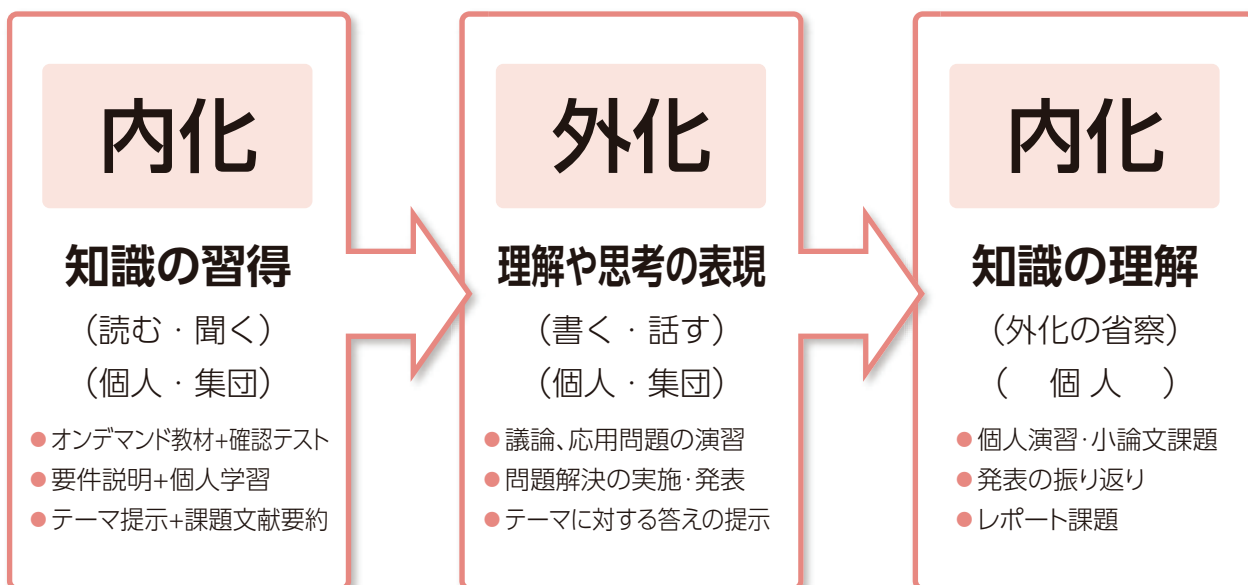
～内化→外化→内化～

- 6、7ページは教員の方向けに授業方法を紹介するページですが、学生の皆さんにとっても、授業方法を知ることは授業選択や学びの上で有効ですので参考にしてみてください。

## ● 内化→外化→内化とは

学生の学びを促進するアクティブ・ラーニング型の授業デザインのひとつです。

下の図のように、知識のインプットとアウトプットを繰り返すことにより、学習の促進と定着を図ります。



この手法は、ICTを活用することで、対面型授業のみならず、オンライン(遠隔)授業にも活用ができます。対面とオンラインを使い分けることで、より効果を高めることが期待できます。

事前事後学習の促進や、積極的で活発な授業参加を促すことができるため、少人数授業では授業の深化を、基礎知識を扱う大人数授業ではアクティブ・ラーニング化を図ることができます。

また、アクティブ・ラーニングにおいて内化と外化はどちらも欠けてはならない関係にあります。内化させた知識は外化させ、その後再度内化するという流れの構築がより良い授業づくりにつながります。

## ● 授業方法転換の例

今までは…	内化→外化→内化で…
必要な基礎知識が多く、教科書や事例を読み上げるだけで時間が足りなくなってしまっていた。	事前に教材を読み込ませ、確認テストを行うことで理解度の低い部分を重点的に教えられるように。
演習を行っているが、その後の学習に繋がりにくかった。	演習後に振り返りを行わせることで、より目的意識をもって学習を行うように。
ディベートを行っているが、学生が意見を持てずなかなか活発にならなかった。	事前に全員が意見を持つことで、ディベートの内容が深化するように。

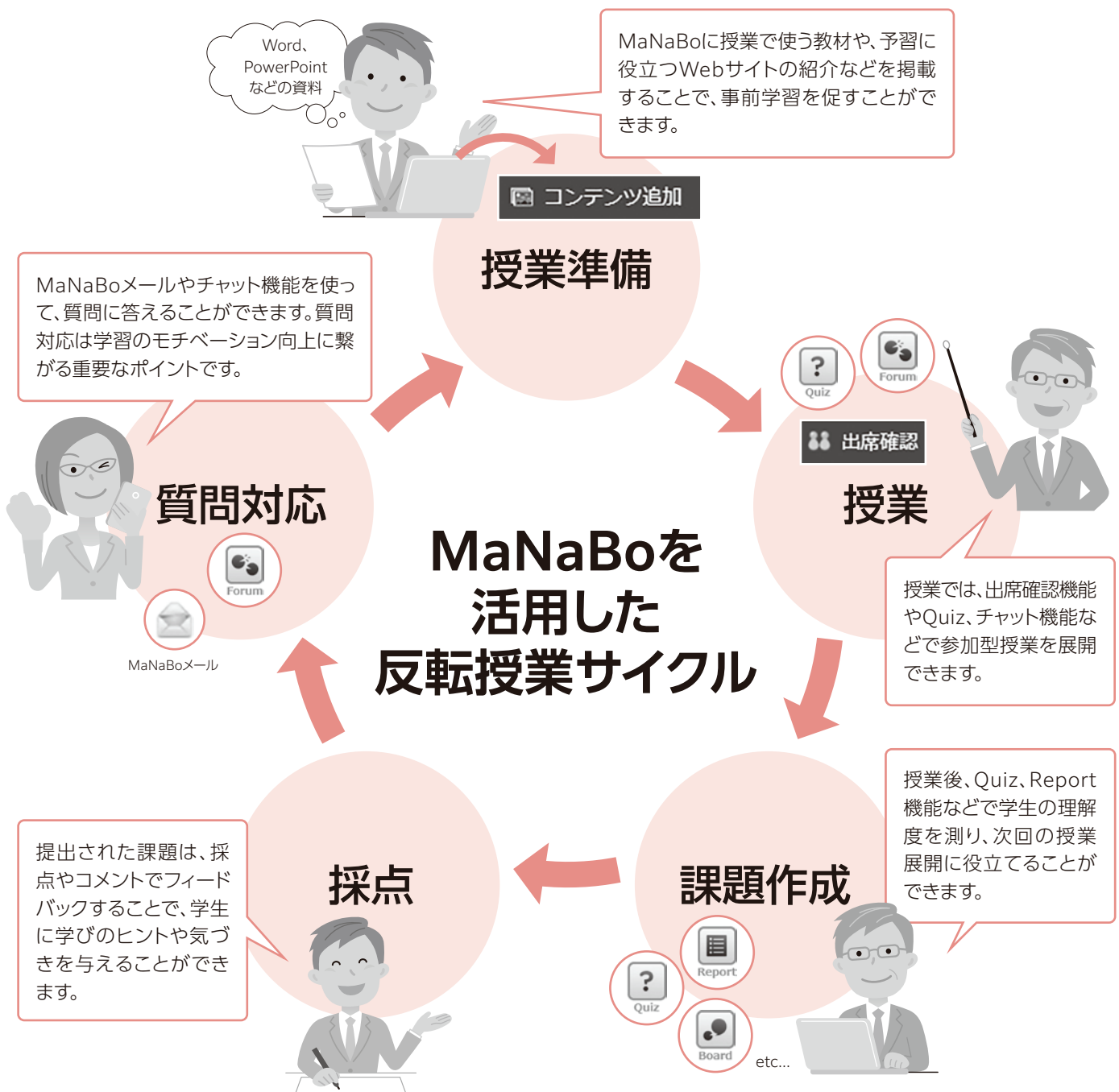
# アクティブ・ラーニングとMaNaBo

## ～反転授業の例～

- アクティブ・ラーニング型の授業展開には、MaNaBoを利用することも方法のひとつです。下の図で、アクティブ・ラーニングの手法である「反転授業」にMaNaBoを利用した授業サイクルの例をご紹介します。

### 反転授業とは？

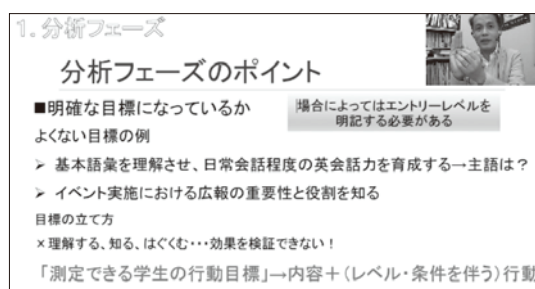
これまで授業内で行っていた知識の伝達と、授業外学習として行っていた演習やグループワーク等の活動をそれぞれ反転して、事前学習として得た知識を授業内で使用することで、知識の定着や深化を図る授業方法です。



- 前のページでご紹介している「内化→外化→内化」の手法により効果的に反転授業を行うことができますので、ぜひ参考にしてみてください。

# FDセミナー オンライン授業を対象としたインストラクショナル・デザイン

- テーマ …………… オンライン授業を対象とした  
インストラクショナル・デザイン
- 講師 …………… 松田岳士 東京都立大学・大学教育センター教授
- 開催日 …………… 2020年12月7日(月) 15:30～17:15
- 参加人数 …………… 71人
- 開催方式 …………… オンライン方式(使用アプリ:Zoom)



1. 分析フェーズ

分析フェーズのポイント

■ 明確な目標になっているか 場合によってはエントリーレベルを  
明記する必要がある

× よくない目標の例

- 基本語彙を理解させ、日常会話程度の英会話力を育成する→主語は？
- イベント実施における広報の重要性と役割を知る

目標の立て方

× 理解する、知る、はぐむ…効果を検証できない!

「測定できる学生の行動目標」→内容+(レベル・条件を伴う)行動

東京都立大学・大学教育センターの松田岳士教授を講師としてお迎えし、本学の教職員を対象とした2020年度第2回FDセミナーを開催しました。

セミナーでは、本学の多くの教員がオンライン授業を経験したという前提を踏まえ、オンライン(オンデマンド、リアルタイム)型、及びハイブリッド型(オンライン型と対面型の組合せ)におけるインストラクショナル・デザイン(学習の効果を最大化するための授業設計)について考えることを目的に、インストラクショナル・デザインの各フェーズ(分析、設計、開発・実施)の概要・ポイントなどの説明がありました。また、グループワークによる情報交換のほか、学生のグループワークを活性化する方法やオンライン授業への対応についても解説がありました。

セミナー後に行われた参加者アンケートでは、「セミナーに参加してよかったですか」という質問に対し、約9割が「思う」「やや思う」と回答。また「今回の講演で、オンライン授業で学生の学習を促す工夫についての理解が深まったと思いますか」との質問についても約9割が「思う」「やや思う」と回答をしており、有意義なセミナーとなりました。

## 教育推進センターの主な活動(2020年度)

2020年度における教育推進センターの主な活動を紹介します。

### [FDセミナー]

上記のセミナーのほかに、「オンライン授業で学生の学習を促す工夫」をテーマにしたセミナーを9月8日に実施しました(詳しくはFD NEWS No.20に掲載)。2020年度は、この2回のセミナーを行い、合計214人の教職員(非常勤講師を含む)・大学院生が参加して、授業の質向上を目指しました。

### [アクティブ・ラーニングの現状把握]

アクティブ・ラーニング型授業の実施状況を把握するために、シラバスを基に学部ごとのアクティブ・ラーニング実施率を調査しました。調査結果は学部提供し、シラバス作成や授業方法再考の一助としました。

### [アクティブ・ラーニングを意識したMaNaBoの活用]

アクティブ・ラーニングを実施する方法のひとつとして、MaNaBoを活用できるようにすることを目的に、教員向けの「MaNaBo活用ガイド」を作成しました。ガイドは教務課HP(教員専用)に掲載しています。

上記の他にも、教育推進センターは様々な活動を行っています。活動や刊行物については、中京大学のHPIにも掲載しているので、一度覗いてみてください。

中京大学HP → 「メインメニュー」(左上) → 「大学案内」 → 「教育方針と取り組み」 → 「FD活動(教育推進センター)」

発行: 中京大学 教育推進センター 〒466-8666 名古屋市中区昭和区八事本町101-2  
Email: fd-office@ml.chukyo-u.ac.jp URL: <http://www.chukyo-u.ac.jp/information/fd/>